

# AMDA 衛生状態の悪化訴え

## ベトナムで 救援活動 派遣医師らへ り会見

大規模な洪水被害に見舞われたベトナムで緊急救援活動を行った国際医療ボランティア・AMDAの医師

らが二十四日、岡山市檜津の本部で帰国会見を行い、現地の衛生状態の悪化や都市基盤整備の必要性などを訴えた。

岡田直己医師(三)と内藤啓子看護婦(三)ともに神戸市在住の二人が出席。死者五百

人以上とされる集中豪雨が発生したベトナムに今月十日から派遣され、被害の大きかった同国中部の都市・フエ周辺でベトナム人医師らとともに医療活動を実施した。

二人によると、現地の医療施設は機器や物資が水没し、日常医療が困難な状態。臨時の診療所計七カ所で計八百五十七人を診察した。岡田医師は「水害で治療をした患者はその一割にも満たず、持病の診療を求めた人が大半だった」、内藤看護婦は「子供たちの栄養状態や衛生状態の悪化が気掛かり」と述べた。

洪水被害のベトナムでの緊急救援活動について報告する岡田医師(右)

さらに二人は「今後、感染症の広がりが懸念され、排水設備など都市基盤の整備も急がれる」と話した。

